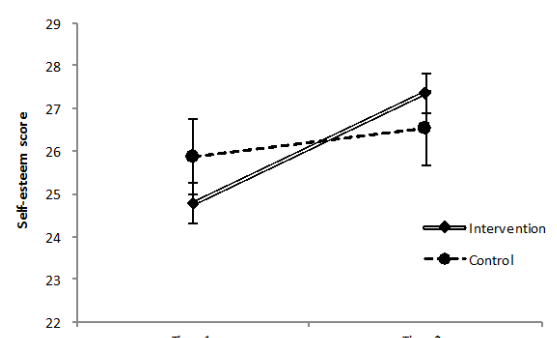


## 平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input checked="" type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕									
プロジェクトの名称	解決志向ブリーフセラピーの面接技法修得に関する研究									
報告者氏名・所属・職名	浅井継悟・釧路校・講師									
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	浅井継悟・釧路校・講師									
研究内容及び成果の概要	<p><b>目的：</b>本研究は、学校現場における心理面接技法修得の一環として、学校教員のコミュニケーションスキルの向上と教育相談技術の向上を目的としたプログラムの開発ならびにその効果について検討することを目的としている。解決志向ブリーフセラピーの技法をもとに全3回のプログラムが作成された。</p> <p><b>方法：</b>対象者はすべてのプログラムに参加した106名 (<math>M=20.31, SD=.67</math>)。</p> <p><b>Intervention group (介入群)：</b>全てのプログラムに参加した84名(男性37名, 女性47名)</p> <p><b>Control group (統制群)：</b>22名 (男性14名, 女性8名)</p> <p>参加者は、プログラムの前後で自己効力感, コミュニケーションスキル, 解決構築尺度に回答した。</p> <p><b>結果：</b>プログラムを実施した結果, 自己効力感(Self-esteem)において, 介入群においてのみ, 実施前 (Time 1) よりも実施後 (Time 2) の方が有意に得点が高いことが明らかとなった。</p> <p><b>考察：</b>介入プログラムはコミュニケーションスキル自体の向上にはつながらなかったが, 解決志向ブリーフセラピーのエッセンスを入れることで, 教員自身の効力感を高めるプログラムを構成できる可能性が示唆された。</p>									
	 <p>Figure 1 自己効力感におけるinterventionとcontrolの平均値(エラーバーは標準誤差)</p> <table border="1"> <caption>Figure 1: Self-esteem scores at Time 1 and Time 2</caption> <thead> <tr> <th>Group</th> <th>Time 1</th> <th>Time 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intervention</td> <td>~24.8</td> <td>~27.5</td> </tr> <tr> <td>Control</td> <td>~25.8</td> <td>~26.5</td> </tr> </tbody> </table>	Group	Time 1	Time 2	Intervention	~24.8	~27.5	Control	~25.8	~26.5
Group	Time 1	Time 2								
Intervention	~24.8	~27.5								
Control	~25.8	~26.5								
成果の公表の状況										
【著書】 【学術論文】										
教育現場で活用可能な分野・教材等										
	今回の研究では、現場で利用可能なプログラム化までは至らなかった。今後、精緻化を加えパッケージ化したプログラムを作成していく予定である。									
配布又はダウンロード可能な資料										
問合わせ先	代表者：浅井 継悟 電話： FAX： mail：asai.keigo@k.hokkyodai.ac.jp									